



4月号

ひだまり

今月のエッセー

心の羅針盤

春は多くのことが始まる季節です。早朝の駅では、四月から新生活をスタートさせる新入生や新社会人が期待に胸を膨らませた表情をしています。そんな彼らを見ていると、「何か新しいことを始めてみようかな?」という気持ちになっ てきます。

とはいえ「あれもしたいし、これもしたい。色々なものに手を出してみようかな?」と考えてはみるものの、その場の雰囲気で行動を起こしてしまっ て、つい中途半端な状態で放置してしまうことが多々あります。思い返せば、今まで様々なものを無駄遣いしてきました。2、3

度使っただけでダンスの肥やしになった釣り道具や、買ってはみたものの手をつけずに放置したままの本やゲームなど。手にした時はあんなに楽しみにしていたのに、いつの間にか興味をなくして放置してしまいました。

しかし最近、物事を途中で放置しないコツを知りました。それは、目標を立てて行うべき方向を知る「心の羅針盤」を持つということです。

羅針盤は船が指標のない海の上を進む時に行き先を示す道具として昔から使われています。目標のないまま、ただ闇雲に走り始めてしまうと、進めば進むほどどこへ向かえばいいのか分からなくなっ てしまい立往生してしまいます。しかし船と同じように心に羅針盤をもてば、たとえ道から外れたとしても目標を見失わずに進んでいくことができるのです。

船が目印のない大海原をいく時に羅針盤を頼りに進むように、私も心に羅針盤をもつて歩んでいきたいです。目標を見定め、何事も疎かにせずに最後まで進めるように、今年度は舵を切っていきます。

◆中野太秀 なかのたいしゅう

修行体験記

「上山前夜」

修行生活の始まりというと、寒い中、門前で何時間も待つ上山(入門)の光景を想像される方もいらっしゃると思います。しかし、実はこれが修行生活の始まりではありません。上山者は、上山の前日に安下処(あんげしよ)というところで身支度を整えてから修行道場の門をたたくのです。つまりこの安下処が初めの半歩というところでしょうか。私にとってこの安下処での一夜こそが修行生活の始まりでした。

私が修行した道場は横浜の大本山總持寺。街の丘の上に佇む總持寺は山奥のお寺と違って人や車、電車の音に囲まれています。



上山前日、私は安下処で床に就く時、昨日まで自然と耳に入っていた人の声、町の音がまるで違って聞こえてくるのに気づきました。以前はうるさいとも感じていたその音たちが、とても恋しく、愛しく耳に入ってくるのです。翌日目を覚ませれば、これまでとは全く違う日常が始まります。「私に修行が務まるだろうか」。そう思う程、これまでの日常がどれほど有難く、我がままに過ごしていたのかを身に染みて感じました。

日常が非日常へと変わる夜。私をはじめ「出家」という言葉の重みを噛みしめた夜でした。◆畔柳公潤 くろみやなぎこうじゆん

編集後記

四月を迎え、季節は暖かな春となりました。

春と言えばやっぱり桜です。なぜ桜はこんなにも私たちの心を惹きつけるのでしょうか。おそらく、それは桜の存在が「当たり前」ではないからでしょう。満開になった花はすぐに散ってしまう。きっと、そんなはかない桜だからこそ、私たちの心を魅了してやまないのです。

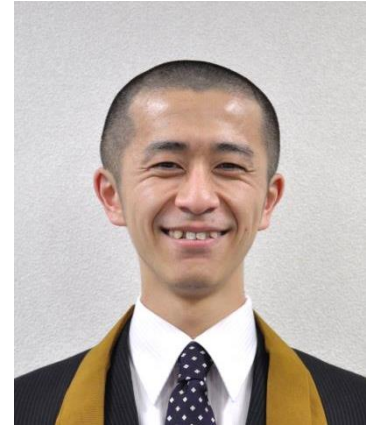
私のルンビニ訪問も二年目を迎えました。自分自身の「当たり前」をもう一度見つめ直し、桜と同じように貴重な訪問にしていきたいと思えます。今年度も、どうぞよろしくお願い致します。

◆竹村信彦 たけむらしんげん

発行 曹洞宗総合研究センター教化研修部門
〒105-8544
東京都港区芝二・五・二曹洞宗宗務庁内
☎03-3454-6844

「よろしくお願ひします!」

新メンバー紹介



たしろ こうじゅん
田代 浩潤さん
出身地：静岡県
趣味：散歩
座右の銘：諸行無常

はじめまして。私は伊豆半島の南伊豆町のお寺で生まれ育ちました。大学卒業後は、福井県の大本山永平寺にて修行をさせていただきました。

永平寺の修行は厳しく何度も逃げたくりましたが、そんな厳格な修行生活が無事送ることが出来たのは私の信念や能力というよりも、仲間の助けや励まし、そして先輩のご指導のお陰でした。私が物事に取り組むことが出来るのはご縁のお陰であることに気づかせていただいた貴重な日々でした。

ルンビニ合掌苑の皆さんとのご縁において、また新たに人生の妙味を学ばせていただけることを楽しみにしております。どうぞよろしくお願ひいたします。



たなか じんしゅう
田中 仁秀さん
出身地：長野県
趣味：音楽演奏
(ドラム)
座右の銘：切磋琢磨

はじめまして。私はりんごの生産が多い長野県飯田市の出身です。
お寺で生まれ育ち、小さい時から、お経を読んだり、お檀家さんと関わり合いながら生活をしてきました。その中で、「自分とは何なのか。生きるとはどういうことなのか。」という疑問をもち、大学では人間の「こころ」について勉強する心理学を学びました。その後、東京にある永平寺の別院で修行し、仏教の素晴らしさを学ばせていただきました。



いろんな仏様

だるまだいし
『達磨大師』



今月は、達磨大師をご紹介します。皆さんは「だるま」と聞くと、「七転び八起き」で有名な赤色の「だるまさん」を思い浮かべるのではないのでしょうか。しかし、実はそれだけでなく、禅の世界ではとても重要な方なのです。

六世紀頃、インドでお生まれになった達磨大師は、出家をし、その後、中国に渡り禅を広めたと言われています。中国において熱心に禅の修行に取り組まれ、伝説では壁に向かって九年間坐禅を続けたとされています。その中国から日本に禅が伝わってきたのです。

禅宗において重要な達磨大師。曹洞宗のお寺では、一般的に本尊様の左側にいらっしやいます。祥泉院の本堂で見つけたら、凛とした姿の達磨大師を是非お詣りしてみてください。

◆ 竹村信彦 (たけむらしんげん)



私の〇〇自慢



『兄弟』



私には双子の兄がいます。高校入学の時から二人で上京してきた私たちは、大学を卒業するまでずっと一緒に生活してきました。現在、兄は都内の私立高校で数学の教師をしています。一卵性ということもあり、学生の頃から比較されることが多かったのが嫌な思いをしたこともありましたが。しかし、兄は学生の頃から努力家で、特に勉強に対しては、定期試験でいつも学年一位になるほど、人の何倍も努力していました。私はその努力という面において、とても尊敬しています。
勤務している高校においても生徒たちから大変慕われているそうです。きっと、常に生徒のためを思い、仕事に取り組んでいるからこそ、生徒達もついてきてくれるのでしょう。

自分に厳しく、常に周りの人のことを考える。そんな兄をこれから見習っていきます。

◆ 國生徹雄 (くにきつとつゆ)